自己評価および外部評価結果

グループホームめいと中金杉

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所が掲げる、「6つの理念」の中の一つに、「地域に開かれた施設であり続けること」があり、これに基づいて、地域の人々との交流を深めている。地域住民の方々との相互協力関係ができあがりつつある。	事業所の理念に基づき、町会の一員として「もちつき大会」「夏祭り」など町会の行事に参加して、地域の方々と交流している。管理者は、地域の班長として地域との協力関係を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会のお祭りへの招待を受けたり、地域の清掃日にはこれに参加したりするなど、地域の一員として認知され活動している。	地域の方々を集めて高齢者介護についての講習会を催している。今年度は、「市民後見人養成講座」を企画し、20数名の地域住民の参加を得た。事業所のイベントに地域の方々を招待することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の要請に応じ、「自分に合った介護サービスを見つけよう」というテーマで介護サービスに関する説明会を実施。その中で認知症の人の介護の特殊性をご説明。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回活発な意見交換がなされており、利用者の「行動の自由の確保」と「安全・安楽の確保」の相克などの困難な問題に関し貴重なご意見を頂きサービス提供に生かしている。	おおむね2ヵ月に1回開催され、本年度は5回開催された。毎回検討テーマを設けて行なっている。運営推進会議に参加されるメンバーは、地域包括支援センター・地域の自治会役員・家族・認知症有識者であり、バランスよく構成されている。	運営推進会議は、年6回を目標に開催する事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方も近くに来たときは気楽に立ち寄ってくださり、当事業所のことをよく理解して頂いている。	市の担当者とは面識があり、施設の状況をよく把握してもらっている。事業所の実情や支援の取り組みについての報告も適宜なされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止対象行為については学習済み。玄関の施錠については、運営推進会議の意見も参考にしたうえで、徘徊防止の見守りの網が破れた場合最後の手段として機能する施錠措置に踏み切った。	玄関の施錠は、運営推進会議の意見も参考にしたうえ、家族に対して文書による説明をした上、去年の１０月より、徘徊防止の最後の手段として施錠を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底	会議にあたっては、利用者の「人間の尊厳」		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護にあたっては、利用者の「人間の尊厳」を片時も頭からなくさないことが当施設の理念であり、虐待に対しては厳格な態度で臨むこととしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者および一部の職員は、弁護士による成年後見制度についての講習を受講済み。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者のご家族とは日頃より連絡を密にしており、その要望や疑問点は直ちに適切に処理している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口横に投書箱を設置しているほか、運営推進会議に家族の方々にも参加していただく機会を設け(家族会と運営推進会議の合同開催)家族の方々の意見・要望の発表の場の確保に努めている。	家族には、日頃より連絡をしている。運営推進会議には、順番に参加して頂くなど工夫している。訪問時などに、家族の意見・要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、管理者に対し自分が気がついたことは積極的に意見を述べうる環境にあり、そのためもあって、当事業所の職員の定着率は極めて高くなっている。	全体のミーティングは3ヶ月に1回、ミニミーティングは、月に2回行っている。又、必要な時は職員から個別に意見を聞くようにして、職員の意見を運営に反映させるようにしている。	管理者の運営方針を職員は共感しているが、管理者も職員の思いや提案、きずきを共有し、運営に取り入れる事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状態などは、職員の給与決定に関する重要参考資料として提出されおり、仕事に対する意欲を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士受験資格のある職員には、資格取得のための指導・援助をする。外部の介護に関する研修会への出席についてはこれを奨励し、便宜を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問は一昨年は実施していたものの昨年はなかった。今後は、グループホーム協議会に提案し、再び実施していきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、基本的に1泊の体験入居をしてもらい、その中から本人の不安や要望への生の声を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際しては、自宅で介護できない事情をお聞きし、ご家族のお悩みを把握したうえで、当施設でできることとご家族の協力を必要とすることとを区分し円滑な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居において把握した本人の特徴をもとに、ご家族とさらに話し合い、本人とご家族が必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力の活用、自立支援ということを常に心において介助するよう指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族の理解と協力は不可欠であり、そのために緊密にご家族と連絡をとりつつ、ともに本人を支えるという関係あることを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葉書や手紙の投函等への援助のほか、来訪された親戚・友人の方などに対しておもてなしの心で接している。	訪問される方に対しては、3時のお茶を一緒にする等ホームのお客様として利用者と職員が一緒になってもてなしている。また、本人の馴染みの人や場所を大切にするよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて利用者同士の会話の中職員が入り、会話の苦手な利用者が孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後一定期間経過した後に、その後のようすを電話でお伺いすることとしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人を中心において考えています。	日常の会話の中から本人の思いや意向を把握するよう努力している。連絡帳や職員の記入した業務日報の中に書きとめている。個別の内容について共有し、引継ぎをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過について、ご家族・担当ケアマネージャー・介護にあたった職員などからの情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼間は、リビングルームで過ごす人が多いので、各自の一日の過ごし方・心身の状態は把握できている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問マッサージの受け入れなど、本人がより良く暮らすための在り方を模索している。介護を拒否する利用者さまに対しては、ご家族と一致協力していろいろな対応策を試している。	担当職員と管理者・その他の職員・家族の意見や話し合いを基に介護計画を作成し、モニタリングは3カ月に1度実施している。 各個室にトイレがあり、排泄の自立を目指して努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきなどについては日誌に記録し各職員が閲覧しサインをする仕組みとなっている。介護の工夫については常時話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すでに受け容れている訪問マッサージなどはグループホームにはないサービスの一つ。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書ボランティアの定期的訪問により、物語の世界を楽しむようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への個々の利用者の受診については、平素の健康管理をして依頼していれば緊急時の対応も円滑に行われるという利点も含めて説明し、受診していただいている。	かかりつけ医から情報提供を受けており、協力医療機関とは良い関係が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に関し介護職が気付いたことは直ちに管理者に報告される。それを受けた管理者は看護師に電話連絡するとともにその指示を受ける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内のソーシャルワーカーと必要に応じて連絡を取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において、終身施設ではないことを理解してもらい、重度化や終末期に至った場合にもできる限り当施設で介護サービスを続けるものの、限界に達した場合には当社他施設の提供の用意がある旨説明している。	入居時に終身施設でない旨を説明している。その際、施設における介護のサービスが困難になった時は、他の施設に移動が可能であることを説明している。	終末期の看取りについて、事業所としての前向きな方針を決める必要がある。本人・家族と話し合いをして、事業所で出来る事と出来ない事を明確にし、協力して支援が出来る準備(職員の教育も含め)を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練はしていないものの、緊急時対応のマニュアルはできており、利用者の急変の場合には順調に機能している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を定期的に行い、避難方法についてはいろいろな場面に対応した方法を検討している。今後地域の消防避難訓練との合同開催も検討中。	防火協会の会員になっている。日頃より、消防署により、避難コースや避難場所への誘導などについて指導を受けている。	特に夜間の災害には地域の協力が不可欠です。地域と連携した対策の早期確立を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に話かける場合には、敬語を使うことを原則とし、また、利用者を「～ちゃん」と呼ぶことは厳禁している。	管理者は、「職員心得　5ヶ条」をつくり、職員と共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	辛抱強く本人の希望に耳を傾け、その希望を理解して介護にあたることの重要性を職員たちは理解しこれを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助の内容に関しては、利用者さま一人ひとりの生活スタイルを可能な限り尊重していくことをモットーとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に鏡を見てもらう回数を多く取り入れることで身だしなみに関する意識を持ち続けられるよう支援している。訪問理美容を導入し、多くの方がこれを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳・下膳・食器洗い・収納などは利用者と職員が一緒に行っている。利用者さまの中にはこれを楽しみにしている人もいる。	利用者が自分でできる事は、職員が一緒になって行なっている。本部に栄養士と調理師がおり、献立は、アンケートにより、リーダー会で話し合い決めている。利用者は、自分の役割として食事の準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は栄養士の献立を基にして調理され、カロリーのバランスのとれたものとなっている。食事の量は各自の状態にあわせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行。独りで歯磨きのできない利用者に対しては、歯磨き介助を行う。義歯は洗浄剤を用いて洗浄している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄サイクルおよび排泄サインを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用をなくすようにしている。	排泄のチェツク表で個別のサイクルを把握し、自立の支援をしている。日中はリハビリパンツやおむつを使わなくても済むようにトイレ誘導を強化している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便の状態を確認をしながら、便秘気味の人には、水分補給・ヨーグルト・牛乳など個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には、週2～3回のペース。本人の身体の状況をみて変更することもあり。入浴の順序の希望に応ずることはできるものの、入りたいときに入るという希望には沿えていない。	週2～3回入浴できるが、希望があれば対応している。入浴時間は午後になることが多い。入浴時は利用者と職員が1対1の態勢で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいときには、いつでも自分の居室に戻って横になれる体制をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が服薬の業務を担当することになっており、各利用者の服用している薬について充分に理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽器を演奏できる人、絵を描くのが好きな人、歌を歌うのが好きな人、書道の得意な人、詩吟の得意な人など多彩の才能の持ち主が多く、得意なものを活かした介助を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が独りで自由に戸外に出ていくことは原則として認めていない。施設から離れた場所にいきたいときは家族に協力をお願いしている。	週に1回位、お風呂のない時の午前中に散歩に出かけている。その他の外出は、家族にお願いしている。	日常の散歩など外出を希望されない利用者の場合、体調の許す限り、短時間でも外出が出来るような支援の工夫を期待したい。又、地域の近所への外出は、地域の方がたと協力される事を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解している方に対しては、職員は干渉せず本人に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡に関しては、本人の依頼を受けて職員が連絡をとってあげるようにしている。そのうえで本人が電話口に出ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口横のミニ花壇、庭に張り出したウッドデッキなどに季節の草花を配置し季節感を演出している。リビングルームは、直射日光が入らないようレースで遮断し、BGMを流すようにしている。	日当たりの良いリビングは、レースのカーテンをかけ眩しくないように工夫しており、いつもBGMが流れ、落ち着いた空間となっている。テレビの使用については、常時つけっ放しにしてテレビに利用者を見守ってもらうようなことにならないようにという配慮をしている。居間やウッドデッキには、季節の花が咲く工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームには、ダイニングテーブルのほか、ソファーを設置し少人数で一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり本人の使い慣れたものをお持ち頂くようお願いしている。	本人の使い慣れた身の回りのものを使用している。また、壁には趣味の絵や書道・思い出の写真などを飾り雰囲気を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになつており、廊下・トイレ・浴室などに手すりが設置されている。		